

みんぱくワールドシネマ

映像から考える<人類の未来>

火の山のマリア

(C) LA CASA DE PRODUCCIÓN y TU VAS VOIR-2015

第38回上映会

2017年 11月5日[日] 13:30~16:00(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 要展示観覧券(一般 420円)

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階 講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

IXCANUL/VOLCANO

2015年 / グアテマラ・フランス / 93分 / カクチケル語・スペイン語
日本語字幕付き

監督・脚本 / ハイロ・ブスタマンテ

主演 / マリア・メリセデス・コロイ マリア・テロン

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 八杉佳穂 (国立民族学博物館・名誉教授)

お問い合わせ 国立民族学博物館 企画課博物館事業係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



開館40周年記念

みんぱく映画会

みんぱくワールドシネマ

映像から考える<人類の未来>

国立民族学博物館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんぱくワールドシネマ」を実施しています。9年目の今期からは<人類の未来>をキーワードに、映画上映を展開していきます。今回はグアテマラ・フランス合作「火の山のマリア」を上映します。グアテマラの高地に暮らす17歳のマヤ人のマリアの運命を通して、現代社会における先住民族マヤの問題を知りたいと思います。

第38回上映会

2017年11月5日(日)13:30~16:00(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 要展示観覧券(一般 420円)

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

火の山のマリア IXCANUL/VOLCANO

2015年／グアテマラ・フランス／93分／カクチケル語・スペイン語／日本語字幕付き

監督・脚本／ハイロ・ブスタマンテ

主演／マリア・メルセデス・コロイ マリア・テロン

司会 鈴木 紀(国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 八杉佳穂(国立民族学博物館・名誉教授)

映画解説

先スペイン時代より続く伝統に近代化の影が忍び寄る、グアテマラ高地を舞台に、マヤ人の人びとが直面する過酷な現実を、ある母娘の葛藤と搖るぎない愛情をとおしリアルに描く注目作。さまざまな表情を見せる火山のふもとで、農家の娘として成長したマリアは、生活の安定を願う両親の薦めで地主との縁談が着々と進行する中、都会への憧れを捨てられずにいた。行動力溢れる青年に惹かれ、子まで身ごもるマリアだったが、彼はひとりでアメリカに向けて旅立ってしまう。幼少期をグアテマラで過ごし、パリを拠点に活動するハイロ・ブスタマンテ監督は、衝撃的な事件やマヤ人の女性の実体験を基に、脚本を練り上げた本作で長編デビュー。スペイン語が不得手なハンディが生む弊害や、相次ぐ幼児拉致問題など、マヤ人が迫害される社会の暗部にも鋭く切り込んでいく。自然を畏怖し旧習を貫く母に鼓舞され、理不尽な運命に抵抗を試みる少女の孤高の姿を活写し、ベルリン国際映画祭で銀熊賞に輝くなど国際的に評価された。(映画評論家 服部香穂里)

変わる社会で変わらぬ生活

グアテマラには、マヤ文明の子孫であるキチエやカクチケルなどのマヤ諸語を話す人が600万人以上いる。彼らは、1524年に征服されて以来、スペイン人やスペイン人とインディヘナの混血であるラディーノに支配されてきた。マヤ人達は、サトウキビやコーヒー農園での低賃金労働やスペイン語ができないための不利益等、ずっと収奪の対象となり、差別を受けてきたが、それでも1980年代に入ると、グアテマラの社会は、グローバル化によって、変化はじめた。世界の大きな潮流の一つとして、マヤ人の間でも、自分たちの伝統や尊厳を守る運動が盛んになり、「マヤ言語アカデミー」の創設や2言語並立化など、国の制度の一部として実現した。また教育やマスマディアの普及により、知識の均一化が進んでいる。しかし、征服以来続く社会の不均衡は解消されることなく、グローバル化とともに、守るべき母語や村の伝統は失われつつあり、さらに経済活動の活発化によって貧富の差が一層大きくなり、犯罪が多発する社会となっている。カクチケル・マヤ人の日常を切り取ったかのようなできばえのこの作品を通して、現代グアテマラ社会の特徴や問題点を知ることができるだろう。(八杉佳穂)

映像から考える<人類の未来>

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

国立民族学博物館では2016年度より特別研究「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」を開始しました。これは、現代文明の諸課題に対して解決志向型のアプローチをとる研究です。現代文明は物質的な豊かさと普遍的な価値観を広めましたが、同時に環境破壊や文化摩擦を生み出しています。民族学や文化人類学の立場からは、現代文明の矛盾はどのように現れるのか、そしてその解決策は何かを、地域社会や民族文化に視点を据えて考えることが重要です。みんぱくワールドシネマのねらいは、この特別研究の問題意識を来館者の皆様と共有することにあります。世界の映画を通して、現代文明を問い直し、多元的な価値が共存する人類の未来を展望したいと思います。



©LA CASA DE PRODUCCIÓN Y TU VAS VOIR-2015

次回作品 2018年2月10日(土)

テレビジョン <関西初公開・劇場未公開作>

Television

2012年／バングラデシュ／106分／ベンガル語／日本語字幕付き
監督・モスタファ・サロワル・ファルキ
出演／シャヒル・フダルミ チョンチョル・チョウドゥリ



©Chabial

 国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

●開館時間 10:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで) ●休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料 一般 420円／高校・大学生 250円／中学生以下 無料

※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分

●バス 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行するお帰りの場合は、同園入園券が必要です。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課博物館事業係
Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242
www.minpaku.ac.jp/

